

震災後 10 年を迎えた被災地における震災モニュメント  
西宮市の震災モニュメント認識と地域特性

同志社大学 文学部 社会学科 社会学専攻

12022001

阿部 祐子

2006 年 1 月 19 日

担当教員 立木 茂雄

震災後 10 年を迎えた被災地における震災モニュメント  
西宮市の震災モニュメント認識と地域特性

学籍番号 12022001 番 阿部 祐子

要旨

1 序論

2 西宮市と阪神・淡路大震災

2.1 西宮市について

2.2 阪神・淡路大震災

(1) 地震の概要

(2) 被害の状況

(3) 西宮市の被害

3 先行研究の展望

3.1 震災モニュメント

(1) モニュメントにおける意味の体系

(2) 死に向けたモニュメント

(3) <対面関係の生>という位相

(4) <非対面関係の生>という位相

3.2 震災モニュメントウォーク

3.3 震災モニュメント形成とまちの復興

3.4 記憶の場

3.5 西宮市内の震災モニュメント

## 4 方法

### 4.1 調査対象者

### 4.2 調査用具

### 4.3 調査の具体的手続き

## 5 結果

### 5.1 町内のモニュメント認識

#### (1) 町内のモニュメント認識

#### (2) 設置場所と設立主体

### 5.2 モニュメントで例年の行事

### 5.3 モニュメントで 10 年目の行事

### 5.4 地域活動の活発さ

### 5.5 他のモニュメントの認識

## 6 モニュメント認識との関連

### 6.1 モニュメント認識と地域活動の活発さ

### 6.2 モニュメント認識と他のモニュメントの認識

### 6.3 モニュメント認識と記念 or 慰霊

### 6.4 モニュメント認識と 10 年目の行事

### 6.5 地域活動の活発さと他のモニュメント認識

### 6.6 10 年目の行事と記念 or 慰霊

## 7 考察

参考文献・引用文献、参考 URL

## 要旨

阪神・淡路大震災から 10 年が経過した。西宮市にはこの 10 年で作られた震災モニュメントが 32 箇所あることが確認されている。震災から 10 年というこの時期に、震災モニュメントは今も地域の人々にモニュメントとして認識されているのか、また認識の差は一体どこからきているのかを調査した。その結果、地域の行事や組織などの地域の活動がモニュメント認識と深い関わりがあるということがわかった。また、地域の活動が活発であれば他の震災モニュメントの認識もされているか、新しいモニュメントをつくる傾向があるといえた。そして、新しいモニュメントということで今回新たに 6 箇所の震災モニュメントがつけられていたことがわかった。

## 1 序論

阪神・淡路大震災から平成 17 年 1 月 17 日で 10 年が過ぎた。そして間もなく 11 年目を迎える。犠牲者の名を刻む、神戸市の東遊園地にある「慰霊と復興のモニュメント」には今年新たに 49 人分の銘版が加わった。遺族はそれぞれの思いをこめてアクリルの銘板を張った。今回加わったのは、震災死者 21 人と、震災が遠因となって亡くなった 28 人である。神戸市は 2000 年にモニュメントを設け、市内の震災死者の名を刻んだが、2 年前、市外や遠因死に対象を広げた。今回で銘板に刻まれた名は 4,792 人となった。

私は幼い頃からずっと西宮市で暮らし、阪神・大震災も経験した。自宅を含め町全体が被災して何もなくなった光景は今も忘れることはできない。このように、阪神・淡路大震災は今でも多くの人々の心に残る出来事であると考えます。しかし震災から 10 年が経ち、震災の記憶は次第に薄れ、震災のことを考える機会は少なくなっている。震災後、まちは驚くほどの速さで復興を遂げ、まちの景観は元の状態を取り戻した。また、震災直後は流出していた人口も次第に戻り、西宮市も震災以前の平成 6 年度の人口 424,328 人を大きく上回る 459,448 人ものが平成 16 年度には西宮市に住んでいる。(西宮市総務局情報化推進部情報公開室) この中には震災を全く経験していない市民も多くいるだろう。私もこれと違って震災を意識する生活は送っていなかった。

しかし、ゼミを決めるにあたって阪神・淡路大震災についての研究をなさっている立木

教授のを知り、自分も震災を経験したということで興味を持ち、立木教授のゼミを選択した。3 回生のゼミでは兵庫県下で震災を体験した人々の現在の生の声を聞く機会が数多くあった。その中で、私が住む西宮市でもワークショップを行い、西宮市民の話を聞いた。ワークショップを行った場所も普段、私がいつも通る道沿いにある公民館であったし、結果を分析する段階でも私は西宮市を担当し、自然と西宮に対する思い入れが強くなっていった。

研究テーマを選ぶにあたって西宮市独特の制度や特徴などに興味がわき、テーマ選びを悩んでいたところ、去年度の先輩方が西宮市内の震災モニュメントについて調査されたという話を聞き、西宮市と震災と自分が自然と結びついた。そして、震災後 10 年を迎えた年でもあるということで、西宮市内の震災モニュメントをテーマとした。去年度の研究は西宮市内の 32 のモニュメント自体についての調査であったため、今回私は、震災から 10 年経過した「今」の震災モニュメントと震災モニュメントを有する地域を中心に考えた。

これまでモニュメント自体については多くの研究がなされてきたが、「今」の震災モニュメントについては詳しく述べられていない。そこで、震災モニュメントは今も地域の人々にモニュメントとして認識されているのであろうか、また認識の差は一体どこからきているのかを去年度の研究を基にして調査する。モニュメントの「今」を調査するといっても、それらを有する施設はモニュメントの存在を認識しているのは当たり前である。したがって、モニュメントを有する地区の自治会長を調査対象者に決めた。方法としてはインタビューを行う。

## 2 西宮市と阪神・淡路大震災

### 2.1 西宮市について

西宮市は兵庫県の東南部、大阪湾北部沿岸に臨み、東は武庫川・仁川を境に尼崎・宝塚両市に、西は芦屋市に、北は六甲山地北部で神戸市にそれぞれ接し、阪神地域の中央部に位置している。市域面積は 100.18k m<sup>2</sup>で、北部の山地部と南部の平野部に分かれ、そのほぼ中間に西宮の象徴ともいべき甲山（標高 309m）があり、付近は六甲山塊の東端にあたる台地を形成している。兵庫県の中でも神戸市、姫路市に続いて 3 番目に人口の多い市である。（平成 17 年 4 月現在）人口は表 2 から分かるように、南部の平野部に集中している。

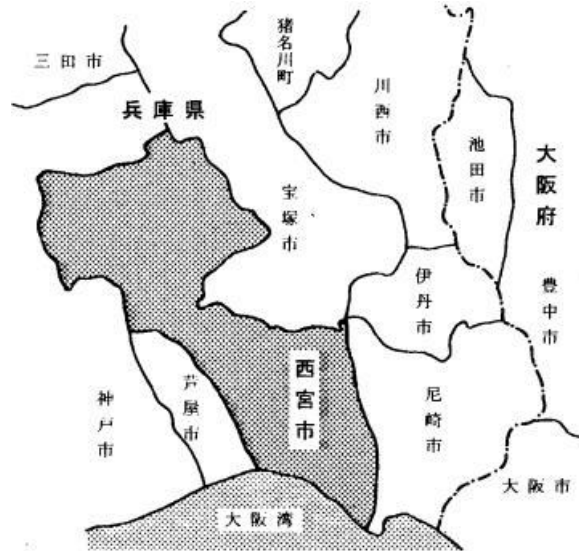


図1 位置および地勢

(出所：西宮市役所ホームページ<http://www.nishi.or.jp/> アクセス日 2005年12月19日)

表2 人口と面積 平成17(2005)年9月1日現在

行政区 域	世帯数	人口			面積
		総数	男	女	
1 .本庁	80,666	187,752	88,770	98,982	27.97
2 .鳴尾	42,145	98,058	46,473	51,585	9.54
3 .瓦木	30,539	69,264	33,279	35,985	5.44
4 .甲東	26,734	65,869	31,448	34,421	8.8
5 .塩瀬	9,018	26,156	12,457	13,699	24.64
6 .山口	5,694	17,471	8,471	9,000	23.79
全市	194,796 世帯	464,570 人	220,898 人	243,672 人	100.18 k m <sup>2</sup>

(出所：西宮市役所ホームページ<http://www.nishi.or.jp/> アクセス日 2005年12月19日)

都市としての西宮の歴史は、古くから大学・学校が集まる文教都市であったといえる。

大正 14 年に西宮市として誕生した 6 年後の昭和 4 年には関西学院が神戸から移転し、その 4 年後には神戸女学院が神戸から西宮に移転する。その後も昭和期は多くの大学が開学し、昭和 38 年に西宮市は文教住宅都市を宣言する。また、数多くの国道・鉄道・高速道路が交差するなど、交通の便のよさから住宅地としての側面も強い。スポーツの面では全国高校野球選手権大会の会場でありプロ野球阪神タイガースの本拠地である甲子園球場が市内に存在することから、小学生・中学生は毎年甲子園球場で小連体・中連体を行う。このことから市民にとってスポーツは身近な存在であると考えられる。また、平成 17 年 10 月には阪急西宮北口駅の南側に阪神間の芸術・文化の発信拠点となる兵庫県立芸術文化センターが完成し、芸術文化の盛んなまちとしてより一層活気を増している。

このように、西宮市は阪神都市圏における住宅、文教、スポーツ・レクリエーションの広域な役割を担いつつ順調な発展を遂げてきたが、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けることとなる。

## 2.2 阪神・淡路大震災

ここで、阪神・淡路大震災の概要と兵庫県・西宮市の被害状況について述べる。

### (1) 地震の概要

地震名：平成 7 年（1995 年）兵庫県南部地震

発生日時：平成 7 年（1995 年）1 月 17 日（火）5 時 46 分

震央地名：淡路島（北緯 34 度 36 分、東経 135 度 02 分）

震源の深さ：16km

規模：マグニチュード 7.3

各地の震度：震度 7（気象庁が地震機動観測班を派遣し現地調査を実施した結果）神戸市須磨区鷹取・長田区大橋・兵庫区大開・中央区三宮・灘区六甲道・東灘区住吉、芦屋市芦屋駅付近、西宮市夙川等、宝塚市の一部、淡路島北部

### (2) 被害の状況（ ）は兵庫県内の被害

#### a) 人的被害

死者：6433 人(6401 人)

行方不明者：3 人（3 人）

負傷者：43,792 人（40,092 人）

b)住家被害

全壊：104,906 棟(104,004 棟) 186,175 世帯(182,751 棟)

半壊：144,274 棟(136,952 棟) 274,182 世帯(256,857 棟)

一部損壊：263,702 棟

c)火災

全焼：6,982 棟

半焼：89 棟

部分焼： 299 棟

ぼや：113 棟

(03 年末、消防庁まとめ)

(出所：神戸新聞Web News<http://www.kobe-np.co.jp/sinsai/index.html>)

アクセス日 2005 年 12 月 19 日)

(3) 西宮市の被害

死者：1,146 人(震災関連死及び市外で死亡した市民 12 人を含む)

倒壊家屋：61,238 世帯(平成 10 年 5 月末現在)

全壊：34,136 世帯

半壊：27,102 世帯

避難所：最大時 平成 7 年 1 月 20 日 194 ケ所

避難者：最大時 平成 7 年 1 月 19 日 44,351 人

避難勧告：阪神・淡路大震災にかかる避難勧告は平成 9 年 6 月 16 日をもって全て解除

火災発生：41 件

(出所：西宮市役所ホームページ<http://www.nishi.or.jp/>)

アクセス日 2005 年 12 月 19 日)

西宮市の死者数は神戸市の 4,571 人に次ぐ多さである。被害状況もほぼ神戸市に次ぐ規模である。西宮市内でも夙川の辺りでは震度 7 を記録した。

### 3 先行研究の展望

#### 3.1 震災モニュメント



震災のモニュメントは「阪神・淡路大震災に関する『何か』をあらわすことを意図して設立された建築物」と定義（今井 2001:116）される。「震災の記憶」は個人として経験した記憶、集合的に経験した記憶、社会全体での記憶など、多くの「記憶」の束が組み合わさって構成されていく。モニュメントは「構成された記号」として、ある事柄に関する一定の解釈やある意味づけを表明する。その上で、モニュメントは<対面関係の死><非対面関係の死><対面関係の生><非対面関係の生>という4つの位相にわけられるとしている。そして、モニュメントの特質は設立主体の組織としての役割（職務）に大きく影響を受けているとした。学校が生徒に向けて行うこと（<対面関係の生>が多い）、行政がその区域の人々のために行うこと（<非対面関係の生>と<非対面関係の死>が多い）、宗教が全ての死者と生者のために行うこと（<非対面関係の死>と<非対面関係の生>が多い）、奉仕団体が社会全体に貢献しようとする（<非対面関係の生>が多い）、地域組織（<対面関係の死>が多い）の5つである。（今井 2001:51(4.38)416）モニュメントの特質は集団ごとに規定されている。震災の「モニュメント」もまた集団の「枠」の影響を受けていると考えられる。モニュメントをつくるとき、集団の持つ語彙は震災に関する事実を（「自己」と「他者」とに）「象徴的に」確定させていく。つまり、震災を「忘れてはならない」と思い、モニュメントをつくるとき、その動機もまた「一般化された他者」の語彙と、集団の「枠」に影響を受けているというのである（今井 2002: 90-92）。

#### （1）モニュメントにおける意味の体系

今井は2002年に『阪神大震災の「記憶」に関する社会学的考察』において、震災モニュメントの4つの象限について詳細な報告をまとめている。今井によると、多くの<対面関係の死>のモニュメントは「数」を刻んでいる。碑の前にいくことが亡き人と向き合うことになるのである。<非対面関係の死>の向き合い方はネーション構築の形式である。その死に「特別な敬意」が払われ「特別な死」と位置づけられることが必要であり、人々は生者（特別な生）を見ない限り死者をみることはできない。対比的にいえば、<対面関係の死>では「死者＝すべての死」をみることになり、<非対面関係の死>では「生者＝特別な生」をみる。死との向き合い方は「象徴交換」「特別な死」「非業の死」という流れのなかにある（今井 2002:94-95）。

#### （2）死に向けたモニュメント

<対面関係の死>のみの単独型はいわば「慰霊碑」である。<対面関係の死>は集団特性という社会集団の次元を越えている（今井 2001）。ここで追悼するという行為は、亡き人たちとの関係だけではなく、その周りの人どうしのつながりへと向かっているのであるという。それに対して<非対面関係の死>に向けられた場合、その死は「特別な死」「非業の死」という場に定位していくことが考えられる。<非対面関係の死>は自治体（社会を代表する組織として認められる）のモニュメントに多い。また、<非対面関係の死>と<非対面関係の生>を接合させていくものも多い。「身近な人を亡くす」という体験が、モニュメントの<対面関係の死>という位相を顕在化させるのに対し、「均質な共同体」を前提とする社会が<非対面関係の死>と<非対面関係の生>の接合を顕在化させるという（今井 2002:95-97）。

### （3）<対面関係の生>という位相

<対面関係の生>は「生」が「生」を秩序づける型式だと理解できる。集団の「枠」とその中に入るべき「内容」は、その両方で大きな「枠」を形成する。学校が「避難所」になった場合が多く、「避難所」の体験が集団としての「学校」を通じて<対面関係の生>という意味の体系を構築する。同じく避難所となった地域組織の場合、<対面関係の生>は少なかった。「避難所」の経験は「地域組織」という「枠」を通じては<対面関係の生>として顕在化しないという可能性が考えられる。「学校関係」の集団特性として、学校が教育の場であり「教訓」をみようとする、そして成長の過程にある場で「過去 現在 未来」という特性を持つ、つまり、学校は「教訓」「時間軸」という「枠」を持つ。モニュメントをつくることは「震災の終わり」を示すものとなる。<対面関係の生>という位相は時間軸と教訓という「意味の体系」を特化させながらつくられてきたという（今井 2002:97-98）。

### （4）<非対面関係の生>という位相

<非対面関係の生>と<非対面関係の死>の複合型、<非対面関係の生>のみの単独型にわかれていた。共同性の構築という観点から<非対面関係の死>が<非対面関係の生>を結びつける。伝える相手を特定すること自体に重点は置かれず、「そのモノ自体に価値があるから」全 116 例の四分の一近くが、被災跡を残すモニュメントである。「被災跡」から派生する意味が「死」をめぐる位相とは相対的に接合されにくい、相対的に「生」に向けたものが多い。<生にも死にも向けられない>というかたちのモニュメントの存在、このタイプ

では被災跡を残すモニュメントが半数以上であった。いわば、<非対面関係の生>に向けたモニュメントの延長線上に<生にも死にも向けられない>タイプがあるといえる。被災跡が最も多いのは宗教組織である、聖性をあらかず象徴として残す可能性、すると聖性は「被災跡」自身に含まれている。震災の「象徴」がモニュメントとされることが<非対面関係の生>（より極端に言えば<生にも死にも向けられない>場合も含む）の特徴であるという（今井 2002:99-101）。

### 3.2 震災モニュメントウォーク

また、三木は震災モニュメントを集団で訪ねて回る震災モニュメントウォークは日常的な俗的空間のなかで行われ、日常世界での職務や役割を超越した人間関係が現出されている「新しい出会い」であることから、穏やかなコムニタスを作り出していると考えられるとし、震災モニュメントウォークは巡礼である、としている（三木 2001）。

### 3.3 震災モニュメント形成とまちの復興

震災モニュメント形成とまちの復興について研究した越智によると、震災モニュメントは被災程度の大きかった地域、すなわち人的被害の大きかった地域やまちの景観の変化の大きかった地域につくられるが、人的被害とまちの景観の変化がともに大きかった地域にはつくられにくく、仮設住宅が建てられた地域には作られにくい傾向がある。震災モニュメントとは、まちのイメージとつながりの再構築の過程の産物である。震災モニュメントが形成されることは再開発等が終了しまちのイメージとつながりが再構築されること、近隣の犠牲者を追悼する共同関心が成立すること、避難所でのつながりを記憶する場が成立することである。つまり、震災モニュメントの形成は、コミュニティとしての「まち」の復興が一段落したことを示す（越智 2005:6-7）。

### 3.4 記憶の場

Nora によると「記憶の場」とは、物質的なものであれ、非物質的なものであれ、きわめて重要な含意を帯びた実在である。そしてなによりもまず残余である。注意深く記念しないと、歴史がそれらを一掃してしまうという。「場」という言葉が持つ三つの意味とは物質的な場、象徴としての場、機能としての場であり、記憶の場を構成するのは、記憶と歴史の働きである。モニュメントもまた場であるといえるが、これは建築的な場と混同され

てはならない。モニュメントである場の例としては、彫刻や戦没者追悼碑があるが、それらを記憶の場にしているものは、その内在性である。すなわち、置かれた場所にまったく意味がないわけではないが、たとえ別の場所に置かれていたとしてもかまわないであろうし、そのことで意味が変わったりはしない。時間によって作られる総体に関しては、事情は全く異なる。それらを記憶の場にしているものは、構成要素どうしの複雑な関係である。記憶の場は、それ自体が自身の指示対象であり、みずからを示すしるしである。記憶の場はみずからに閉じこもり、みずからのアイデンティティに閉じこもり、そしてみずからの名に凝縮されている極端な場であるが、また他方で、みずからの意味が広がる限りでつねに開いた場でもある（Nora 1997=2002）。

### 3.5 西宮市内の震災モニュメント

以下に去年度の調査で判明した西宮市内の 32 箇所の震災モニュメントの詳細を示す。便宜的に番号をつけているが、今回の調査もこの番号に従う形で行った。町名は今回新たに加えた項であり、震災モニュメントが存在する町名別に自治会長にインタビューを行った。

表 3 西宮市内の震災モニュメント

	名前	場所	町名	設立主体
1	りんごの植樹	浜脇中学校	宮前町	西宮リンゴ並木後援会
2	時計「あの時を刻む」	甲陽学院中学校	中葭原町	教員
3	追悼のプレート「大震災に負けないで」	香櫨園小学校	中浜町	教員
4	「十三重石塔」	甲子園警察	甲子園七番町	—
5	「復興記念碑」	八幡神社	若山町	八幡神社、その他
6	「記念碑」	津門小学校	津門呉羽町	西宮市津門社会福祉協議会
7	モニュメント「日時計」	瓦木中学校	薬師町	教員、中学校

8	「再建鳥居」	熊野神社	高木東町	熊野神社
9	石碑「心やすらかに」	夙川小学校	久出ヶ谷町	小学校、PTA、本部
10	「復興落ケ慶記念碑」	昌林寺	津門西口町	檀家、寺
11	石碑「阪神大震災」	神明緑地	神明町	芦原地域復興対策協議会
12	石碑「心やすらかに」	大社小学校	桜谷町	避難者、ボランティア、学校
13	「復興復旧祈願の碑」	大社中学校	神原	中学校
14	「復興の鐘」	高木小学校	高木西町	小学校
15	「慰霊碑」	高木公園	高木東町	—
16	「追悼之碑」・写真パネル	西宮震災記念碑公園	奥畑	西宮市役所
17	「震災大時計」	西宮中央商店街	馬場町	西宮中央商店街振興組合
18	「組合員・家族慰霊碑」	阪神土建労働組合	津門仁辺町	阪神土建労働組合
19	りんごの石のモニュメント・りんごの植樹	樋ノ口小学校	樋ノ口町	樋ノ口地域ふれあい活動実行委員
20	石碑・憩い・親睦	森具公園	屋敷町	まちづくり協議会、西宮市役所
21	復興工事竣工の碑	素盞鳴神社	甲子園町	素盞鳴神社、その他
22	再建復興の記念碑	福應神社	今津大東町	福應神社、その他
23	「鎮魂碑」	大手前大学	御茶家	大学

			所町	
24	三つの石組み「追悼・友愛・感謝」	かぶとやま荘	越水社 家郷山	西宮市老人クラブ連合会、秋 田県老人クラブ連合会
25	ブロンズ像「翔」	甲陵中学校	上甲東 園	教員
26	「慰霊碑」	後呂和裁学院	津門大 箇町	—
27	石碑「やすらかに」	仁川地すべり 資料館	仁川百 合野町	仁川百合野自治会、仁川町 6 目自治会
28	カモメのモニュメント「阪神・ 淡路大震災の記」	真砂中学校	今津真 砂町	P T A 会長
29	壁画「しぜんのなかで」	上ヶ原中学校	上ヶ原 九番町	校長
30	りんごの植樹	能登りんご公 園	能登町	西宮へりんご並木を贈る会
31	—	広田神社	大社町	広田神社
32	再建本堂	西廣寺	段上町	西廣寺

#### 4 方法

前章の先行研究によって、震災から 10 年経過した現在の震災モニュメントについての研究はなされていないということがわかった。そこで、私はこの 10 年で建てられた震災モニュメントが果たして今も「モニュメント」として認識されているのか、そして認識の差は一体どこからきているのかを検証していきたいと思う。

##### 4.1 調査対象者

調査対象者は、西宮市内の 32 の震災モニュメントを有するそれぞれの地区の自治会長とした。その際、震災後 10 年に関する震災モニュメントにおける行事についても調査す

るため平成 16 年度の自治会長とした。その結果、一つの町内に複数の震災モニュメントを含む町があったため、調査対象者は自治会長 30 人と、インタビューの過程で自治会長にモニュメントについてより詳しい他の人を紹介された場合に話を聞いた 3 人を合わせた 33 人（男性 30 名、女性 3 名）となった。

#### 4.2 調査用具

調査は私の住む町内の自治会長以外は電話によるインタビューである。質問は町内にあるモニュメントのことを説明した後に「町内にあるそのモニュメントを知っているか。」、また、知っていた場合には「モニュメントで何か行事をしているか。」、この質問については例年の行事と、震災から 10 年目を向かえた平成 17 年の行事とのどちらについても聞いた。他には「町内で建てたモニュメントは他にあるか。」、「地域の行事や組織はあるか。また、何をしているか。」、その他、モニュメント自体についての話や知っているモニュメントや地域の話などを自由に語ってもらった。

あわせて、西宮市役所内にある情報公開ルームにある資料から西宮市内の小学校校区別、町別の被災状況、人口変動などの情報を収集した。

#### 4.3 調査の具体的手続き

ここでは実際に行った調査を簡単に紹介する。調査はまず、去年度の調査によって判明した 32 箇所のモニュメントがどの町内に位置するかを調べた。そして、ちょうど私の住む町の隣の町にそのうちの一つのモニュメントがあったことから、2005 年 7 月 19 日に、私が住む町内の自治会長のお宅にお邪魔してモニュメントについての話を聞いた。この自治会は私の住む町、モニュメントを含む町、そしてもう一町の 3 町を合わせた自治会である。その際、西宮市内の平成 16 年度の自治会長を同意を得て紹介してもらい、それを基に 2005 年 10 月から 11 月にかけて、それぞれのモニュメントを有する地区の自治会長に電話をかけてモニュメントについての話を聞いた。そしてその過程で自治会長にモニュメントについてより詳しい他の人を紹介された 3 町についても同じように、電話で震災モニュメントについて話を聞いた。

なお、調査に当たっては私の住む町内の自治会長からの紹介で電話をかけたこと、西宮市内の震災モニュメントについて調査していて、自治会長という立場から町内の震災モニュメントについての話を聞きたいという旨を伝えて話を聞いた。

## 5 結果

はじめに、西宮市内に存在する震災モニュメントについての一覧が下記の表 4 である。既に調査された 32 箇所に加えて今回新たに 6 箇所の震災モニュメントが発見された。

### 5.1 町内のモニュメント認識

#### (1) 町内のモニュメント認識

町内のモニュメントが認識されていたのは 32 箇所のモニュメントのうち、19 箇所であった。小学校区別でみると、校区内の全てのモニュメントが認識されていた小学校区は浜脇小(1,17)、夙川小(9,23)、甲陽園小(16)、広田小(30,31)、段上西小(32)、深津小(11)、津門小(6,10,18,26)、今津小(22,28)の 8 小学校区、15 箇所のモニュメントであった。認識されていたモニュメントが 19 箇所であるから、約 8 割のモニュメントは小学校区によって認識の差に違いが出るということになる。また、モニュメントを認識している場合はモニュメントについてのなりたちやモニュメントにまつわる話を自治会長がよく知っている場合が多く、反対にモニュメントを認識していない場合はモニュメントについて何も知らないという場合が多かった。

#### (2) 設置場所と設立主体

設置場所でみると、小中学校などの教育機関に設置されているもの 15 箇所のうち今回認識されていたモニュメントは 7 箇所であった。この 7 箇所を設立主体別にみると、設立主体が学校単独のものは 3 箇所、地域の組織などが学校という場を借りて建てたものが 4 箇所であった。また、認識されていない 8 箇所のうち、設立主体が学校単独のものは 7 箇所、地域の組織などが設立主体のものは 1 箇所であった。このことから、設立主体が学校単独の場合、地域の住民にはモニュメントとして認識されにくいといえる。

### 5.2 モニュメントで例年の行事

町内のモニュメントで例年行事をしているのは 2 箇所であった。能登りんご公園では年に一回小学生が公園内のりんごの木のリんご狩りを行う。これは慰霊のためにこのりんご公園がつけられたことから、直接慰霊という肩書きはないが、年に一回は必ずりんご狩りを行うという行為が震災を思い出す重要な行事となっているという。



表4 西宮市内の震災モニュメント(2005)

	名前	場所	町名	設立主体	記念or 慰霊	町内の モニュメ ントの認 識	例年 モ ニュメ ントで の行	10年 目の 行事	地域 の行 事、 組織	他のモ ニュメ ント	震災に よる死 亡者数	全半壊世 帯比率
1	りんごの植樹	浜脇中学校	宮前町	西宮リンゴ並木後援会	慰霊		×	×		×	1	67
2	時計「あの時を刻む」	甲陽学院中学校	中葎原町	教員	慰霊	×	×	×	×	×	0	85.72
3	追悼のプレート「大震災に負けないで」	香櫨園小学校	中浜町	教員	慰霊	×	×	×	×	×	6	56.91
4	「十三重石塔」	甲子園警察	甲子園七番町	—	記念	×	×	×	×	×	1	11.01
5	「復興記念碑」	八幡神社	若山町	八幡神社、その他	記念	×	×	×	×	×	0	20
6	「記念碑」	津門小学校	津門呉羽町	西宮市津門社会福祉協議会	記念		×	×		(18)	9	61.58
7	モニュメント「日時計」	瓦木中学校	薬師町	教員、中学校	慰霊	×	×	×	×	×	1	44.44
8	「再建鳥居」	熊野神社	高木東町	熊野神社	記念	×	×	×	×	×	12	71.27
9	石碑「心やすらかに」	夙川小学校	久出ヶ谷町	小学校、PTA、本部	慰霊		×	×		(D)	1	62.43
10	「復興落ヶ慶記念碑」	昌林寺	津門西口町	檀家、寺	記念		×	×		(6)	1	42.3
11	石碑「阪神大震災」	神明緑地	神明町	芦原地域復興対策協議会	慰霊		×	×	×	×	11	91.09
12	石碑「心やすらかに」	大社小学校	桜谷町	避難者、ボランティア、学校	慰霊	×	×		×	(16)	6	66.5
13	「復興復旧祈願の碑」	大社中学校	神原	中学校	慰霊	×	×	×	×	×	2	33.37
14	「復興の鐘」	高木小学校	高木西町	小学校	慰霊	×	×	×		(C)	22	68.97
15	「慰霊碑」	高木公園	高木東町	—	慰霊		×	×	×	×	12	71.27
16	「追悼之碑」・写真パネル	西宮震災記念碑公園	奥畑	西宮市役所	慰霊		×		×	×	0	93.55

17	「震災大時計」	西宮中央商店街	馬場町	西宮中央商店街振興組合	慰霊		×			×	4	56.15
18	「組合員・家族慰霊碑」	阪神土建労働組合	津門仁辺町	阪神土建労働組合	慰霊		×	×		(6)	8	44.16
19	りんごの石のモニュメント・りんごの植樹	樋ノ口小学校	樋ノ口町	樋ノ口地域ふれあい活動実行委員	慰霊		×	×	×	(B、F)	0	36.46
20	石碑・憩い・親睦	森具公園	屋敷町	まちづくり協議会、西宮市役所	慰霊		×			(E)	38	92.9
21	復興工事竣工の碑	素盞鳴神社	甲子園町	素盞鳴神社、その他	記念	×	×	×	×	×	3	11.07
22	再建復興の記念碑	福應神社	今津大東町	福應神社、その他	記念		×			×	0	53.96
23	「鎮魂碑」	大手前大学	御茶家所町	大学	慰霊		×	×		×	4	74
24	三つの石組み「追悼・友愛・感謝」	かぶとやま荘	越水社家郷山	西宮市老人クラブ連合会、秋田県老人クラブ連合会	記念	×	×	×	×	×	0	0
25	ブロンズ像「翔」	甲陵中学校	上甲東園	教員	慰霊	×	×	×	×	×	1	33.57
26	「慰霊碑」	後呂和裁学院	津門大筒町	—	慰霊		×	×		(6)	2	28.68
27	石碑「やすらかに」	仁川地すべり資料館	仁川百合野町	仁川百合野自治会、仁川町6目自治会	慰霊		×	×	×	×	26	37.11
28	カモメのモニュメント「阪神・淡路大震災の」	真砂中学校	今津真砂町	PTA会長	記念		×	×	×	×	2	0.1
29	壁画「しげんのなかで」	上ヶ原中学校	上ヶ原九番町	校長	慰霊	×	×	×	×	×	2	40.09
30	りんごの植樹	能登りんご公園	能登町	西宮へりんご並木を贈る会	慰霊					(A)	12	53.5
31	—	広田神社	大社町	広田神社	記念		×	×		(16)	0	37.05
32	再建本堂	西廣寺	段上町	西廣寺	記念					×	3	23.76
A	「命」・りんごの植樹	広田小学校	愛宕山								1	52.93
B		甲武会館	樋ノ口町								0	36.46
C		高木西公園	高木西町								22	68.97
D	桜の植樹	北夙川小学校	石刎町	越木岩自治会							5	50
E	「慰霊碑」	森具公園横	屋敷町								38	92.9
F	植樹	犠牲者のお宅	樋ノ口町	樋ノ口町1丁目自治会、樋ノ口町2丁目自治会							2	54.09

もう一箇所は西廣寺である。年に三回集まったり、段上の自治会が震災を忘れないように、と話をしたりする会を1月17日にもつという。

例年モニュメントで何か行事をするというのは32箇所のうちわずか2箇所という結果であった。付け加えていうと、学校では1月17日に毎年避難訓練を行っていることが多いが、今回は自治会長にインタビューしたため、その避難訓練は学校独自のもので地域と共同でやっているものではないため自治会長のインタビューからは把握できなかった。

### 5.3 モニュメントで10年目の行事

10年目の行事を行ったのは32箇所のうち6箇所であった。大社小学校では地域の人も少し参加して献花も行う、少し大きなセレモニー的な行事をしたという。地域の人に震災当時の話を聞く会を設け、避難訓練もした。西宮震災記念碑公園では午前5時半から、記帳所と献花を用意し遺族や市民などが参列した。西宮中央商店街では平成16年と17年は5時46分に炊き出しをし、祈りをささげた。また、商店街の事務所横にスペースを作って、当時の写真などを飾っているという。森具公園では被害状況の写真展や語り部による震災当時の様子を語る会を計画した。(語り部は中越地震で子どもたちにも伝わったと判断して中止した。)能登りんご公園では例年のように小学生が公園内のりんごの木のリんご狩りを行った。西廣寺でも例年のように年に三回集まり段上の自治会が震災を忘れないように、と話をしたりする会を1月17日にもつた。

### 5.4 地域活動の活発さ

地域活動が活発なのは14箇所であった。浜脇中学校も含まれる浜脇地区では「浜脇まつり」として小学校で夏にイベントを催している。これは地域のつながりを作ろう、ということから震災後から始まったイベントであるという。津門小学校では、皆が震災のことを忘れないようにとの思いを込めて協会が12町会に碑の建立を呼びかけた。そして、防災教育の一環になるように、と平成9年11月に校内に慰霊碑ではなく「記念碑」として碑を建てた。その後各町内が集まって自主防災会をつくり、年に一回炊き出し、消火訓練、避難訓練、ポンプ操作を行うという。また、子どもも参加して講演会をしたこともあるという。津門12地区の自治会長のインタビューではこの自主防災会の話が必ず出てきた。夙川小学校・北夙川小学校・苦楽園小学校の小学校区から

なる越木岩自治会は自治防災会を組織している。森具公園では「フェスタ森具公園」として地域の交流を図るためにフリーマーケット、ダンス、子どもたちを交えての絵描き、アスレチック、模擬店などを行うという。福應神社がある今津地区では震災の翌年1月17日から神社の南の大東公園で防災訓練を行う。20町会代表各5~10人、計200人前後が集まり、消防署からも来てもらうという大きな訓練である。また、この防災訓練は永久に続けて行こうという考えだという。大手前大学では地域と学校で共同して何かしようという考えで、去年から自治会も学園祭に参加して出店している。また、アウトセンターを借りて地域の共同写真展をしているという。職員とは話す機会も多く、防災のことはこれからだが、確実に地域のつながりは強くなってきている。広田神社では平成元年くらいから5月終わりに神社と地域と共同で田植えを行っているという。神社が主となり、実行委員は地域の方に任せるという共同の形である。2,3年前からはお店も出る夏祭りを開催し、5年ほど前の神社の鳥居復活の際はお稚児さんの行列が参道を歩いた。また、普段も地域のサークル活動の場として神社の建物を使っているという。

#### 5.5 他のモニュメントの認識

自分の町内にあるモニュメント以外の他のモニュメントを知っているのは11箇所の自治会長であった。一番多く名前が挙がったのは津門小学校の「記念碑」であった。津門の全ての箇所で「記念碑」の話が出た。これは津門地区の自主防災会の存在が大きく影響していると思われる。次に多いのは西宮震災記念碑公園の「追悼之碑」・写真パネルである。これは西宮市役所が中心となって建てた市のモニュメントであるため広く認識されていると思われる。ここで言いたいのは、今回の調査で新しく発見された6箇所の震災モニュメントの存在である。自治会長に話を聞く中で、以前の調査では出てこなかった6箇所のモニュメントの話を知ることが出来た。以下にそれぞれのモニュメントについて詳しく記述する。

##### A 「命」・りんごの植樹（広田小学校）

能登りんご公園に植樹したりんごの木之余り2本を植樹した。それと同時に「命」のモニュメントを建てた。

##### B 碑（甲武会館）

自治会 2 つが集まり、一緒に甲武会館に碑を 17 年 1 月 17 日に建てた。ペンキでかいた。ふれあい会館樋ノ口で奥さん、地域の方々が 6 年生に話をした。

#### C (高木西公園)

高木西公園の区画整理事務所の隣に 2002 年にモニュメント建てた。高木西町のシンボルである。1 月のモニュメントウォークの時に公園でお出迎えする。自治会が主体となりやっている。

#### D 桜の植樹、追悼のモニュメント (北夙川小学校)

避難民が植えた桜の木と追悼のモニュメントがある。公になっていないし、メディアに載せる気もない。教訓、防災を意図している。震災翌年から 1 月 17 日は「越木岩防災の日」であり、10 年目の 1 月 17 日には集まった 2000 本以上のろうそくで追悼集会を行った。越木岩自治防災会は 2 万人、7500 世帯である。訓練の年 (土曜に行い、登校日にする) とフェスタの年 (防災関係見直し、地域の顔合わせ) を毎年交互に行い、桜の咲く時期に避難所同窓会をしている。

#### E 「慰霊碑」(森具公園横)

10 年目の去年は香櫨園小の子どもにも知らせたい、後世に伝えたいという思いから 65 名の犠牲者の慰霊碑を建てて慰霊祭をした。公園の北東の隅にお地藏さん、その傍に慰霊碑を建てた。碑には「慰霊」の言葉、3 自治会の名前が碑に刻まれた。17 日が平日だったので休みの日にと、1 月 15 日に行った。3 町の自治会で 1 年半前から計画した。

#### F 植樹 (犠牲者のお宅)

2 人亡くなったからお宅に亡くなった人がたてたヒウ口の苗木を植えた。自治会 2 つが集まり、一緒に植えた。

震災モニュメントを認識していて、例年も 10 年目もモニュメントに関する行事をしている、地域の行事・組織もある、他のモニュメントも知っている、と自治会長が答えた震災モニュメントは能登りんご公園の「りんごの植樹」1 箇所だけであった。また、他のモニュメントは知らないがそれ以外はあるのは西廣寺の 1 箇所であった。一方、モニュメントを認識していないし、例年も 10 年目もモニュメントに関する行事をしていない、地域の行事・組織もない、他のモニュメントも知らない、と自治会長が答えた震災モニュメントは 11 箇所であった。次節以降では今回インタビューした 5

つの項目を分解して2項目ずつ詳しくみていき、考察を進めていきたい。

## 6 モニュメント認識との関連

### 6.1 モニュメント認識と地域活動の活発さ

図のように、自治会長が町内のモニュメントを認識している19箇所のうち地域活動が行われているのは13箇所(68%)であった。その13箇所とは、りんごの植樹(浜脇中学校)、「記念碑」(津門小学校)、石碑「心やすらかに」(夙川小学校)、「復興落ヶ慶記念碑」(昌林寺)、「震災大時計」(西宮中央商店街)、「組合員・家族慰霊碑」(阪神土建労働組合)、石碑・憩い・親睦(森具公園)、再建復興の記念碑(福應神社)、「鎮魂碑」(大手前大学)、「慰霊碑」(後呂和裁学院)、りんごの植樹(能登りんご公園)、広田神社、再建本堂(西廣寺)である。また、自治会長が町内のモニュメントを認識していない13箇所では実に12箇所(92%)で地域活動が行われていないという結果であった。また、モニュメントを認識していて地域活動が行われている13箇所のうち地域活動の内容で自分たちの地区の防災会をあげたのは8箇所であった。

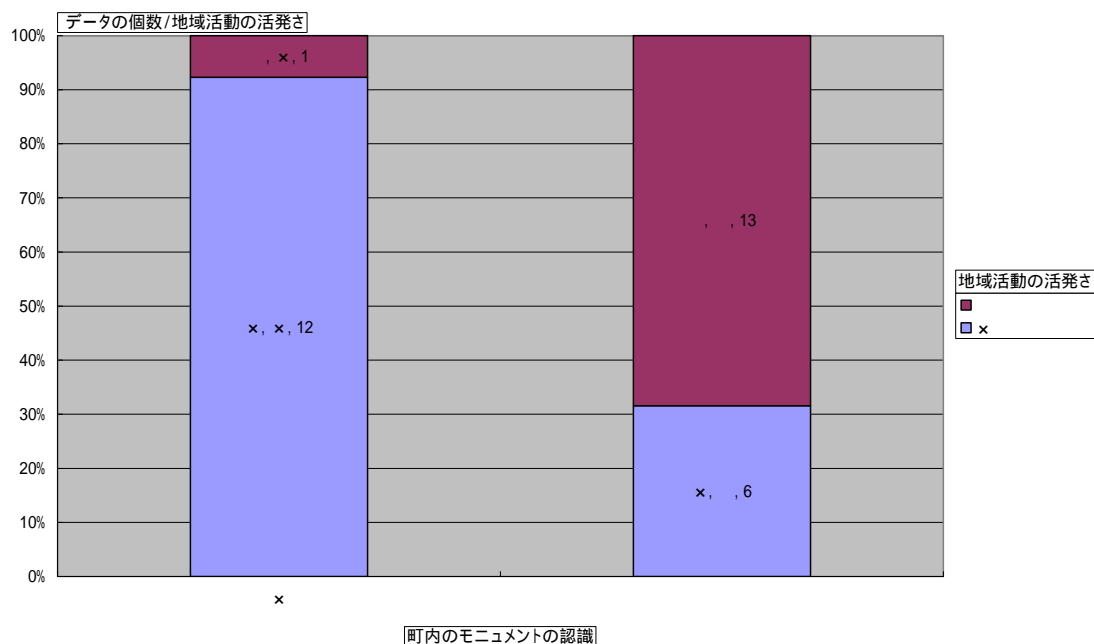


図5 町内のモニュメント認識と地域活動の活発さ

## 6.2 モニュメント認識と他のモニュメントの認識

図で示すように、自治会長が町内のモニュメントを認識している 19 箇所のうち他のモニュメントを認識しているのは 9 箇所 (47%)、認識していないのは 10 箇所 (53%) とあまり差のない結果であった。

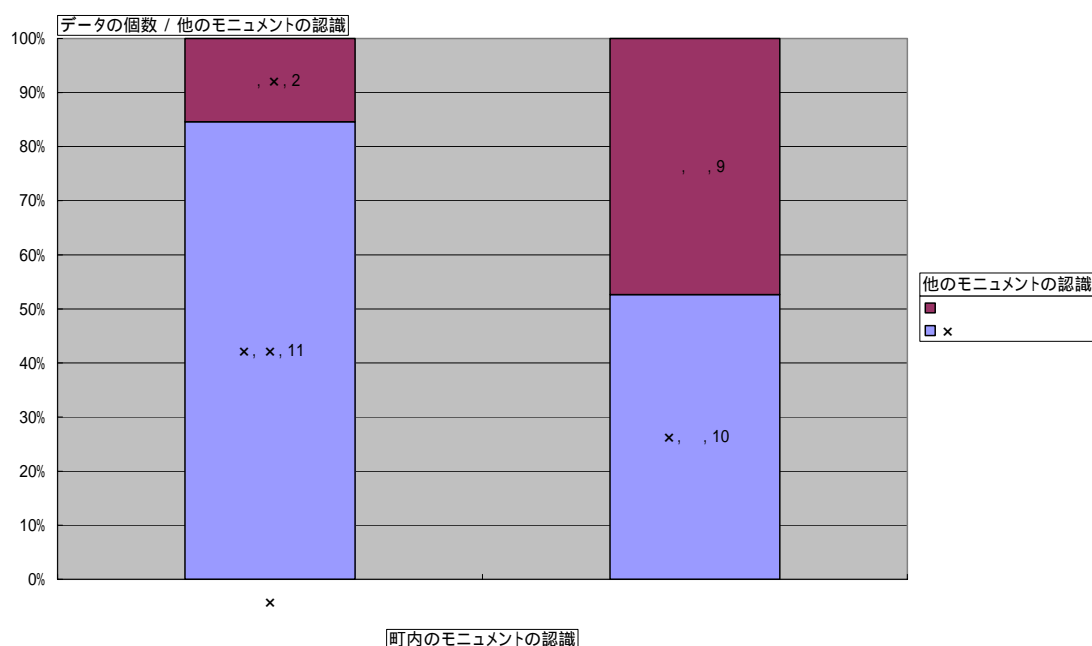


図 6 町内のモニュメント認識と他のモニュメント認識

町内のモニュメントを認識していて他のモニュメントも認識している 9 箇所のうち、他のモニュメントとして名前があがったのは「記念碑」(津門小学校)が 3、「追悼之碑」・写真パネル(西宮震災記念碑公園)「組合員・家族慰霊碑」(阪神土建労働組合)「命」・りんごの植樹(広田小学校) 碑(甲武会館) 植樹(犠牲者のお宅) 桜の植樹・追悼のモニュメント(北夙川小学校)「慰霊碑」(森具公園横)がそれぞれ 1 であった。今回判明した新しいモニュメント 6 箇所のうち 5 箇所の名前がここであがった。前にも述べたように、「記念碑」(津門小学校)の認識は津門地区の自主防災会の存在が大きく影響していると思われる。また、「追悼之碑」・写真パネル(西宮震災記念碑公園)も西宮市役所が中心となって建てた市のモニュメントであるため広く認識されていると思われる。しかし、新しく名前があがった 5 箇所のモニュメントは設立主体

の規模はそれほど大きくない。また、自治会長が町内のモニュメントを認識していない 13 箇所のうち 11 箇所（85%）が他のモニュメントを認識していないという結果であった。

### 6.3 モニュメント認識と記念 or 慰霊

図のように、自治会長が町内のモニュメントを認識している 19 箇所のモニュメントのうち記念のモニュメントは 6 箇所（32%）、慰霊のモニュメントは 13 箇所（68%）、自治会長が町内のモニュメントを認識していない 13 箇所のうち記念のモニュメントは 5 箇所（38%）、慰霊のモニュメントは 8 箇所（62%）であった。見方をモニュメントの特性にすると、記念のモニュメント 11 箇所のうち認識されていたのは 6 箇所（55%）、認識されていなかったのは 5 箇所（45%）、慰霊のモニュメント 21 箇所のうち認識されていたのは 13 箇所（62%）、認識されていなかったのは 8 箇所（38%）であった。このことから、慰霊のモニュメントの方が若干認識される割合が高いといえる。ほとんど差はないと思われるが、若干慰霊のモニュメントの方が認識されていた理由としては、やはり具体的に町内の犠牲者などのために慰霊という意味を込めてたてたということが、周囲の住民にとっても記念としてたてたものよりもモニュメントの持つ意味が明確なために認識につながったと考えられる。

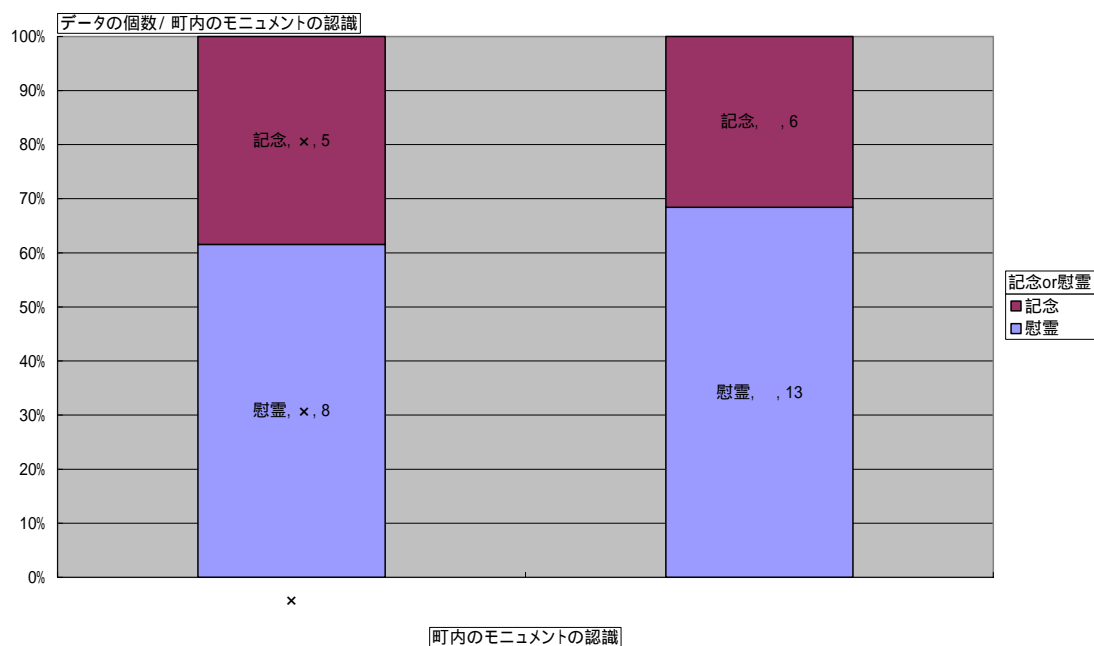




図7 町内のモニュメント認識と記念 or 慰霊

#### 6.4 モニュメント認識と10年目の行事

図に示すように、町内のモニュメントを認識している19箇所のうち、10年目の行事を行っていたのは5箇所(26%)であった。その5箇所とは、「追悼之碑」・写真パネル(西宮震災記念碑公園)、「震災大時計」(西宮中央商店街) 石碑・憩い・親睦(森具公園) りんごの植樹(能登りんご公園) 再建本堂(西廣寺)であった。また、町内のモニュメントを認識していない13箇所のうち、10年目の行事を行ったのは石碑「心やすらかに」(大社小学校)の1箇所であった。この石碑「心やすらかに」(大社小学校)のモニュメント自体は自治会長に認識されていなかったが、震災から10年目として行われた小学校の行事に招待され参加したという。そこでは献花をし、地域の人に当時の話を聞く会も行われたという。震災後10年の行事をモニュメントがある学校などが行った場合、地域の人も呼ばれて参加したという話を聞いたのはこの石碑「心やすらかに」(大社小学校)の場合だけであった。

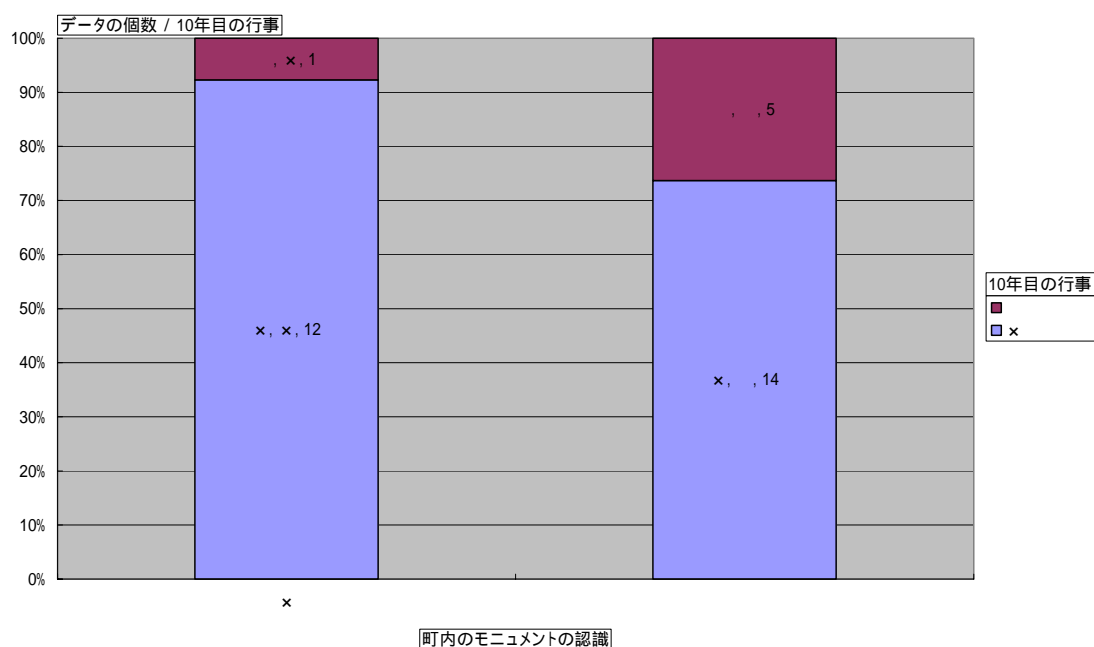


図8 町内のモニュメント認識と10年目の行事

学校では1月17日に毎年避難訓練を行っていることが多いので10年目の年も何ら

かの行事が行われたと考えるが、他の 12 箇所、あわせて言うとモニュメントを認識している 19 箇所をあわせても学校の行事に自治会長が参加したという話はこの石碑「心やすらかに」(大社小学校)だけであった。これはこのモニュメントの設立主体に 32 箇所の中で唯一避難者、ボランティアが入っていることによると考えられる。この石碑「心やすらかに」がある大社小学校では震災を契機に避難民、児童、教員、全国から集まった数十人のボランティアを「大社ファミリー」と呼称し、今でもその呼称は残り密接な住民同士のつながりがあるという。モニュメントは避難民がボランティアらにお礼として渡したお金で作られている。モニュメントには犠牲となった児童の名前と共に「大社ファミリー」の名前が刻まれている。(田中 2004:17) というようにモニュメントが地域とのつながりの証であると思われる。したがって、「大社ファミリー」である地域の人でも行事に招待されたのであろう。しかし、自治会長は長年この町に住んでいるそうだがこのモニュメントについては認識していなかった。これは例年行事に招待されているわけではなく、また 10 年目の行事もモニュメントのある校庭ではなく体育館で行われたことからモニュメントに直接関わることはなかったからであろうか。

#### 6.5 地域活動の活発さと他のモニュメント認識

図に示すように、地域活動が活発な 14 箇所のうち、9 箇所(64%)で他のモニュメントを認識していた。地域活動が活発で他のモニュメントも認識している 9 箇所は、町内のモニュメントを認識していて他のモニュメントも認識している 9 箇所とほとんど同じであった。違ったのは 1 箇所で、りんごの石のモニュメント・りんごの植樹(樋ノ口小学校)がある町内の自治会長はモニュメントを認識していて他のモニュメントも認識していたが、地域の行事・組織はなかった。それに対して「復興の鐘」(高木小学校)がある町内の自治会長はモニュメントの認識はなかったが地域の行事・組織はあり、他のモニュメントも認識していた。また、地域活動が活発ではない 18 箇所のうち、実に 16 箇所(89%)で他のモニュメントを認識していない、という結果であった。

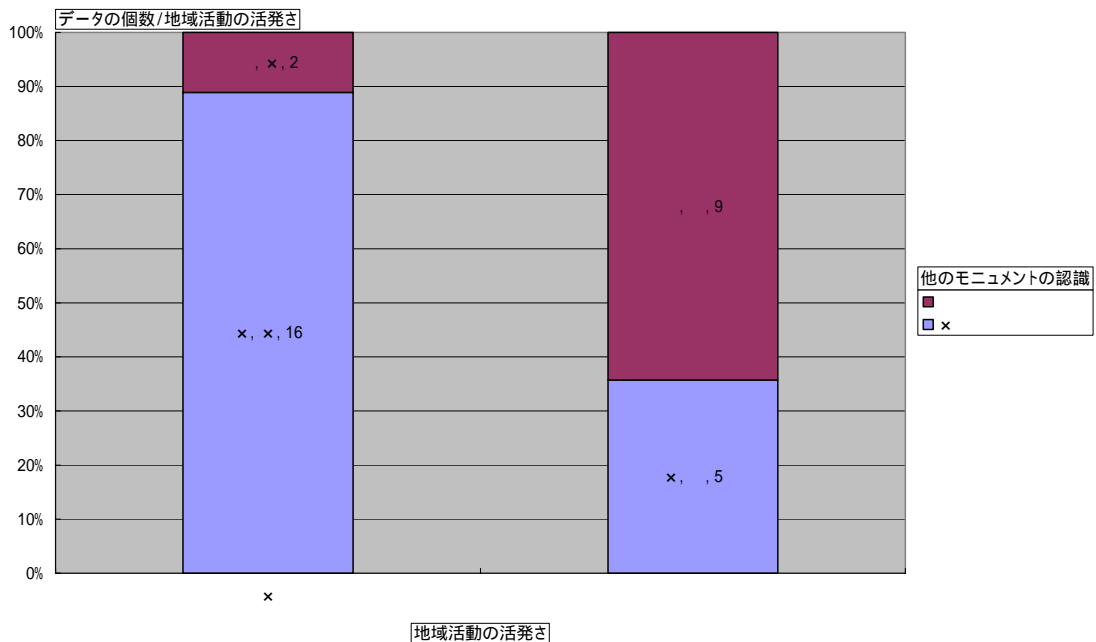


図9 地域活動の活発さと他のモニュメント認識

### 6.6 10年目の行事と記念 or 慰霊

図のように、記念のモニュメント11箇所のうち10年目の行事を行ったのは1箇所(9%)で、行事を行わなかったのは10箇所(91%)、慰霊のモニュメント21箇所のうち10年目の行事を行ったのは5箇所(24%)、行事を行わなかったのは16箇所(76%)であった。10年目の行事を行ったのは、記念のモニュメントでは再建本堂(西廣寺)、慰霊のモニュメントでは石碑「心やすらかに」(大社小学校)、「追悼之碑」・写真パネル(西宮震災記念碑公園)、「震災大時計」(西宮中央商店街)、石碑・憩い・親睦(森具公園)、りんごの植樹(能登りんご公園)の5箇所であった。10年目の行事を行ったのは32箇所のモニュメントのうち6箇所だけであったが、その6箇所の内訳は慰霊のモニュメントが圧倒的に多かった。これは、モニュメントの特性が大きく関係している。震災から10年経過したということで改めて犠牲者を追悼するために行事が開かれるのであるなら、具体的に「慰霊」としてたてられたモニュメントで行うのが犠牲者追悼に一番の方法となるであろう。しかし、記念のモニュメントでも10年というひとつの区切りの年を迎えて改めて震災の被害や恐怖を思い出し、また自分たちが復興してきたなかで得た教訓などを震災を経験しなかった人々に語り継ぐという意味を

もつ。

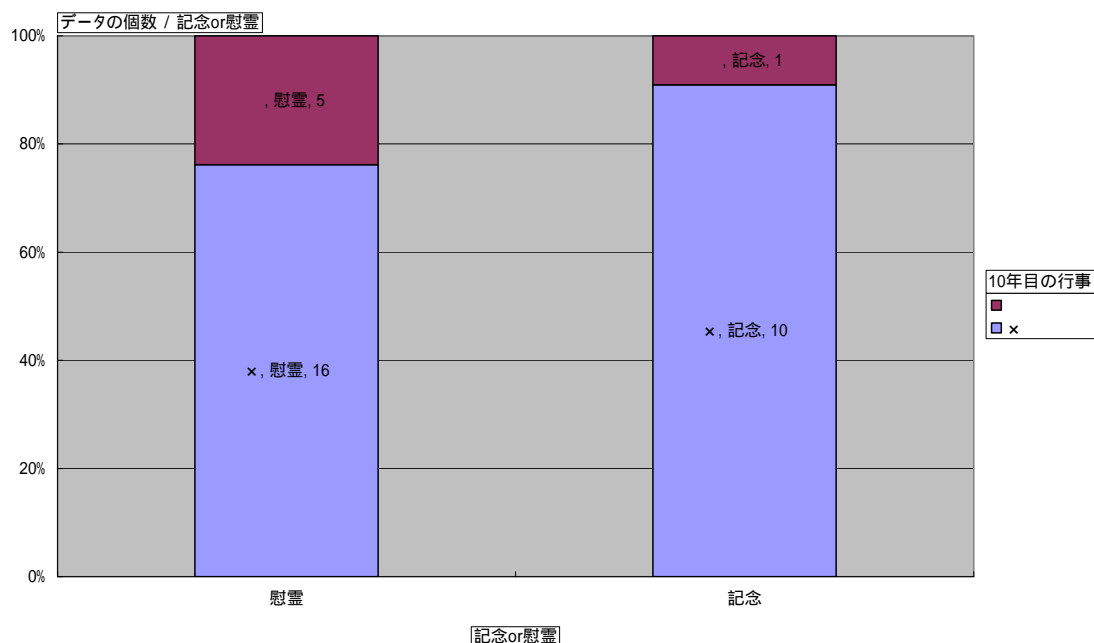


図 10 10年目の行事と記念 or 慰霊

## 7 考察

今回の調査で、モニュメントが認識されるのは今も地域の行事や組織が活発に行われているかいないか、という地域活動の活発さに大きく関わっているということが判明した。また、地域の活動が活発であれば他のモニュメントも認識している場合が多かったことから、地域活動が活発であれば町内のモニュメントを認識し、新しくモニュメントをつくるといえる。今回判明した新しいモニュメント 6 箇所のうち 5 箇所ものモニュメントが公園や会館、小学校などの公共の場に建てられていた。そして、設立主体はいずれも自治会などの地域の組織であった。また、モニュメントとして碑の形が残るものとあわせて「植樹」という場合が同数の 3 箇所であった。これは、これまでに分かっている震災モニュメント 32 箇所のうち「植樹」は 3 箇所であったということを見ると大きな意味をもつ結果であるといえる。「植樹」は一見モニュメントとしては認識されないもののように思える。しかし、それを建てた人やその地域の人にとってはモニュメントとして存在しているのである。

これは、「碑」という物質よりも「樹」という植物を植えることによって「自分たちもこの樹と一緒に生きていく」という生の思いの表れではないだろうか。また、これらの樹は地域の人々の「記憶の場」として今後も機能していこう。この植樹を行ったのは自治会や市内の団体であるなど、地域のつながりがここでも重要であるといえる。

また、モニュメントも多くつくられ現在も変わらず認識され続けている津門地域は昔からの旧家が多く、昔から地域にはつながりがあったと考えられる。このつながりが阪神・淡路大震災を経験したのち、自然な流れで津門 12 地区の自主防災会に発展したと考えてよいだろう。また、震災による被害はあったもののそれほどひどい被害にはならなかったこと、それによって震災後も人の出入りがそれほどなかったこと、また、道路が新しく通るなどの再開発が行なわれなかったことなどから、今も地域のつながりがあるのであろう。これは阪神土建労働組合の「組合員・家族慰霊碑」と後呂和裁学院の「慰霊碑」が組合員や生徒の慰霊としてたてられた「私的」なモニュメントであるのに町内の自治会長に認識されていたことからわかる。

それとは逆に、高木地区では震災で潰れた家屋も多く、震災で大きく町が変わったといえる。阪急西宮北口には震災後新しく駅に直結したショッピングセンターやマンションが建ち、また、駅の北側には道路が通ることに伴い、新しい家が並ぶ住宅地が新しくできた。そして、町の再開発により新しい人も多く入ってきた。また、この新しい住宅地ができたのもつい最近のことで、この地区は今もまだ開発中である。このことから、以前に建てられたモニュメントについては認識されにくいのではないだろうか。しかし、この高木地区には今回の調査で新しく判明した高木西公園がある。これは自治会が主体となってつくったそうで、これは震災後大きくまちが変わって新しい人が多く入ってきたことで、改めて震災のことを訴えて地域住民の「記憶の場」をつくるのと同時に、新しく地域のつながりをつくろうという試みではないだろうか。

高木西公園の場合とは対照的に、西宮中央商店街では平成 16 年と 17 年は 5 時 46 分に炊き出しをし、祈りをささげ、また、商店街の事務所横にスペースを作って、当時の写真などを飾っているということであった。しかし自治会長の話によると、商店街としては震災をひきずりたくないし、10 年を区切りにして前向きに歩き出したいという思いが強いということで来年はやらない方向にある、ということであった。このように、震災のモニュメントが新しく作られる一方で震災モニュメントから離れていこうとする動きもあった。これは、震災のつらい記憶が今もまだ地域の人々の中あり、

10 年を期に新しく前に進みたいという表れであろう。この場所が西宮中央商店街ということなので、おそらく当時震災を経験した人々が今も同じ場所で店を営んでいるであろう。そのため震災の記憶や地域のつながりは今も十分にあるので、震災モニュメントにこだわることはないということなのである。また、「商店街としては震災をひきずりたくないし」という言葉は震災モニュメントや行事があることによって自分たちが過去に後退してしまうという意味にとれる。これに対して震災モニュメントに関する行事を永遠のものとしたいという地区がある。震災モニュメントを過去のつらい記憶を象徴するものとしてとらえるか、今後の生き方、教訓の象徴としてとらえるか、それは人や地域によって様々である。

また、津門の 12 地区の自主防災会に代表されるように、地域のつながりとして震災後に大きく増えたものがそれぞれの地区での防災会であった。これは阪神・大震災の経験が確実にきっかけとなって生まれたものだといえる。この自主防災会では住民たちが一同に集まり震災の記憶が共有されるため、その地区の震災モニュメントも認識されやすいと考えられる。また、新しいモニュメントの設立主体がほぼ自治会だったことを考えると、自治防災会が開かれるなかで、新しいモニュメントをつくらうという声が上がったと考えられる。

震災モニュメントを認識しているか、していないか。モニュメントを認識していないし、例年も 10 年目もモニュメントに関する行事もしていない、地域の行事・組織もない、他のモニュメントも知らない、と自治会長が答えた震災モニュメントは 11 箇所であった。モニュメントを認識していないのが 13 箇所であるから、町内のモニュメントを認識していない場合は例年も 10 年目もモニュメントに関する行事もしていないし地域の行事組織もない、他のモニュメントも知らないということである。また、知らないと答えた多くの場合、「初めて聞いたが本当にそうなのか」や、「今年初めて自治会長になったのでわからない」といった発言が出た。これはやはり一番に地域のつながりがないために、町内に震災モニュメントがあるにも関わらず認識されていないということであろうか。11 箇所のうち 8 箇所が震災から 5 年以内につくられたモニュメントであった。

また、特徴的な行為としては自治会長が震災モニュメントについてよく知らない場合に他の人を紹介したことである。これは 32 箇所のうち 3 箇所で行われた行為であるが、この場合、「私は知らない」で終わらずにすぐに詳しい人を紹介するという言葉が

出てきた。また、その方の名前、連絡先もすぐ自治会長の口から出てきた。この行為が行われたのは追悼のプレート「大震災に負けないで」(香櫨園小学校)、石碑「心やすらかに」(夙川小学校)、復興工事竣工の碑(素盞鳴神社)の3箇所である。また、この3箇所のうち2箇所(香櫨園小学校、素盞鳴神社)ではモニュメントを認識していないし、例年も10年目もモニュメントに関する行事をしていない、地域の行事・組織もない、他のモニュメントも知らない、という答えであった。一方、石碑「心やすらかに」(夙川小学校)ではモニュメントでの行事はないものの、モニュメントは認識していて、地域の行事・組織もあり、他のモニュメントも認識していた。私は詳しい他の人を紹介するのだからその地域のつながりはできていると考えていた。しかし、結果はすべて知らないと答えた方が多かった。それは、他の人を紹介する場合ももっとモニュメントについて知ってもらいたいと思って紹介する場合と、自分では全く分からないので他の人に託すという場合の二通りあるということを示す。事実、「心やすらかに」(夙川小学校)の場合に紹介していただいた方は町内のモニュメントだけでなく、他の新しいモニュメントについても話を聞くことが出来た。しかし、他の2箇所では自治会長の場合と同じような反応であった。これも、「心やすらかに」(夙川小学校)の町内では地域の活動が活発で他の2箇所では地域の活動がなかったことと大きく関係していると考えられる。

長い間一人の人が自治会長をしているという町では町内の震災モニュメントについて認識している場合が多く、むしろ「私が発起人となった」や「自治会で提案して計画した」というように、モニュメントをつくる側となったという話も多く出た。こういった言葉が出た地域では、必ず地域の行事・組織がある結果となり、また他のモニュメントについて認識しているか、新しいモニュメントがつけられる傾向にあった。これは、震災の記憶を強く持つ自治会長や自治会関係者が多くいればいるほど思いが共有されて町内の震災モニュメントについての認識につながるからであろう。そして震災の教訓を生かすためにも地域のつながりを大切にしていると考えられる。他のモニュメントの認識に関してはやはり他の地域とのつながりから自然と入ってきたのではないだろうか。地域活動で自分たちの地区の防災会をあげたのは8箇所であった。この防災会は1町内で行っていることは稀で、少なくとも何町かが集まって組織されていた。したがってこの防災会の集まりの中で他のモニュメントが認識されてきたと考えられる。また、「防災」を考えていく中で、新しいモニュメントの話があがったと

考えられる。

これらのことから、震災モニュメントの認識は、地域の活動（行事・組織）が活発であるかどうかによるということが示される。地域の活動（行事・組織）が活発であれば町内の震災モニュメントは認識されやすく、地域の活動（行事・組織）が活発でなければ震災モニュメントの認識が抑制される。また、地域の活動（行事・組織）が活発であれば他の震災モニュメントの認識もされているか、新しいモニュメントをつくる傾向があるといえる。また、その地域の活動は自主防災会などの震災に関連したもの、震災後に発足したものが多く、阪神・淡路大震災が地域のつながりづくりに大きく影響しているといえる。

### 参考文献・引用文献

- 古澤隆広，2004，『阪神大震災の復興に関するモニュメント調査』。
- 今井信雄，2001，「死と近代と記念行為 阪神・淡路大震災の「モニュメント」にみるリアリティ」『社会学評論』51（4）：412-429。
- ，2002，「阪神大震災の「記憶」に関する社会学的考察 被災地につくられたモニュメントを事例として」『ソシオロジ』47（2）：89-104,175-175。
- 三木英，2001「巡礼の創出、聖地の出現」『復興と宗教：震災後の人と社会を癒すもの』3：135-172。
- 西宮市企画局企画調整部，1996，『阪神・淡路大震災「被災実態等調査報告書」』。
- 西宮市総務局情報化推進部情報公開室，2004，『町別人口』。
- Nora,Pierre,1997,From Lieux de memoire to Reams of Memory,Realms of Memory:Rethinking the French Past:Conflicts and Divisions( = 2002 ,谷川稔訳『記憶の場』から『記憶の領域』へ」谷川稔監訳『記憶の場』第一巻，岩波書店.)
- 越智祐子，2005，『まちの復興のメルクマールとしての震災モニュメント形成 地理情報システムを用いた形成要因の分析』。
- 震災モニュメントマップ作成委員会・毎日新聞震災取材班，2001，『阪神大震災 希望の灯りともして... - 67人の記者が綴る158のきずな』どりむ社。
- 田中崇介，2004，『震災復興についての一考察 地理情報システムを用いた西宮市の震災モニュメント研究を通じて』。



立木茂雄，2003，『震災復興 10 年目をみすえた「神戸の今」の総括・検証 2003 年草の根検証ワークショップと市政アドバイザー意識調査をもとにして』同志社大学 社会学科社会学専攻

#### **参考 URL**

西宮市役所，2005，「アウトライン西宮」

( <http://www.nishi.or.jp/> , 2005.12.19 )

神戸新聞，2005，「神戸新聞 Web News」

( <http://www.kobe-np.co.jp/sinsai/index.html> , 2005.12.19 )

( 40 字 × 30 字 ) 本文 27 ページ 400 字詰め原稿用紙 52 枚

## 資料

## 各モニユメントのコメント

1	「浜脇まつり」小学校で夏イベント 地域のつながりを作ろう、ということから 震災後から始まった
6	慰霊碑ではなく「記念碑」 皆が震災のことを忘れないようにとの思いを込めて協会が12町会に呼びかけ 防災教育の一環になるように、と平成9年11月に校内に建てた 各町内が集まって自主防災会をつくり年に一回炊き出し、消火訓練、避難訓練、ポンプ操作 子どもも参加し、講演会をしたこともある
10	住民にも宗教が色々あるので一緒に行事などはしていない 地域として津門小の北側に記念碑 その左にはその記録をした碑
12	1月17日には毎年避難訓練を行う 地域の人に当時の話を聞く会を行う 去年度は地域の人でも少し参加して献花も行う、少し大きなセレモニー的
17	去年と今年は5時46分に炊き出し、祈りをささげた 商店街としては震災をひきずりたくない 10年を区切りにして前向きに歩き出したい 来年はやらない方向だがまだわからない 商店街の事務所横にスペースを作って、当時の写真などを飾っている
18	阪神土建さんのは組合員のためのもの 自治会としては別に12地区でして津門小に記念碑 5、10年に1回くらい、不定期で訓練、記念碑にお参り
20	区画整理後に公園ができた 被害状況の写真展 語り部：中越地震で子どもたちにも伝わったと判断して中止 フェスタ森具公園：地域の交流、フリーマーケット、ダンス、絵描き、アスレチック、模擬店 今年5月15日に行われた 森具公園オープンの時に市長の名で「親睦と憩い」という石碑を置いた
22	本殿は残るが社務所、宮司が住む家が倒壊 神社だけでなく地域の7割が倒壊し大変だった 寄付した人の名前を彫って永久に残そう 震災の翌年1月17日から神社の南の大東公園で防災訓練 20町会代表各5～10人、計200人前後が集まる、消防署からも来てもらう 永久に続けて行こうという考え 地区の今津連合自治会が宮へ寄付(1億5～6000万円) 震災復興の方から補助金申請(4000万円) 死亡者が少なかった(5人)ためモニユメントは建てていない
23	地域と学校で共同して何かしようという考え 去年から学園祭に参加して出店 アウトセンターを借りて地域の共同写真展をしている 職員とは話す機会も多い 去年の10年目に関する行事はしていない 体育館を避難所として開放した(公共の場所として) 防災のことはこれから 防災訓練は3自治会と夙川小と共同で自主防災訓練

26	学院内でのことで地域とは関わりない 津門12地区の自主防災会:毎年行っているわけではない 5年10年と節目となる年に声が上がってする
28	学校と共同ではない サカモトナオコさんのバックアップ(山田知事も) 真砂中には南甲子園小地区の子どもの多いためよくわからない 今津校区の普通の行事には参加する
30	西宮りんご愛好協会が中心となった 震災直後、ナミキイチコさんの「りんごのうた」を避難先の体育館で大合唱した その後、りんごを植樹しようということになり全国から寄付された 緑地公園化、道路化の課 年に一回小学生がりんご狩りを行う 慰霊のためのりんご公園である、というプレート りんごの木のプレート 去年度は読売、朝日、NHKに取り上げられた
31	平成元年くらいから5月終わりに神社と地域と共同で田植え 神社が主となり、実行委員は地域の方 神社の中では他の神社とは格が違う、という角がこのごろ取れてきた 2,3年前からはお店も出る夏祭りを開催 5年ほど前の神社の鳥居復活の際はお稚児さんの行列 地域のサークル活動の場として神社の建物を使っている
A	能登りんご公園に植樹したりんごの木の余り2本を植樹
B	自治会2つが集まり、一緒に甲武会館に碑を建てた 17年1月17日に建てた、ペンキでかいた ふれあい会館樋ノ口で奥さん、地域の方々が6年生に話をした
C	区画整理事務所の隣に2002年にモニュメント建てた 高木西町のシンボル 1月のモニュメントウォークの時に公園でお出迎えする 自治会が主体となりやっている その後、小学校に流れるパターン
D	越木岩自治会:北夙川小、夙川小、苦楽園小 北夙川小:避難民が植えた桜の木と追悼のモニュメント 公になっていないし、メディアに載せる気もない 教訓、防災の意図 震災翌年から1月17日は「越木岩防災の日」 越木岩自治防災会は2万人、7500世帯 10年目の1月17日には集まった2000本以上のろうそくで追悼集会を行った 訓練の年(土曜を登校日にする)とフェスタの年(防災関係見直し、地域顔合わせ)を毎年交互 来年は訓練の年(自衛) 桜の咲く時期に避難所同窓会
E	10年目の去年は香櫨園小の子どもにも知らせたい 後世に伝えたいという思いから去年65名の犠牲者の慰霊碑を建てて慰霊祭をした 公園の北東の隅にお地蔵さん、その傍に慰霊碑 「慰霊」の言葉、3自治会の名前が碑に刻まれた 1月15日に行く、17日が平日だったので休みの日にと、 3町の自治会で1年半前から計画した この地域はほとんど全滅だった
F	2人亡くなったからコウダさんのお宅に亡くなった人がたてたヒウ口の苗木を植えた 自治会2つが集まり、一緒にたてた